

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：33917

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25550108

研究課題名(和文) オーストラリアにおけるランドケアと持続可能な地域発展に関する制度分析

研究課題名(英文) An Institutional Analysis of Australian Landcare and Sustainable Communal Development

研究代表者

Michael Seigel (SEIGEL, Michael)

南山大学・総合政策学部・教授

研究者番号：40387733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：オーストラリアのランドケアは、ローカル、地域、州のそれぞれのレベルで活動が自律的に展開されているが、ローカルグループが主体的に環境改善に取り組む一方で、上位のレベルがその活動を補完するシステムとなっている。ここに、ランドケアに補完性の原理という制度的特質を見出すことができる。また、ランドケアは自然資本をクリティカルなものとして共通に認識する人々をベースとしながら、植林等の形で種々の自然資本への投資や、環境管理に取り組む人材の育成、外部資金・技術の活用を促進する働きがある。地域の生産的基盤を豊かにするという点で、ランドケアは持続可能な地域発展を実現するための重要な制度的基盤となりうる。

研究成果の概要(英文)：In Australian Landcare, activities are carried out autonomously at local, regional and state levels. However, while local groups take the initiative in activities for their own natural environment, Landcare is a system whereby the higher levels support those activities. In this respect, the principle of subsidiarity can be seen in the institutional structure of Landcare. Further, while Landcare has at its base people who share a perception of natural capital as critical, Landcare also promotes investment in this natural capital through tree-planting, developing human capital for environmental management, and promoting the use of external sources of funds and skills. Landcare has the potential to become an important institutional base to achieve sustainable communal development.

研究分野：社会倫理、ランドケア

キーワード：ランドケア オーストラリア 補完性の原理 持続可能な地域発展 自律性 連携

1. 研究開始当初の背景
 (1) 新環境保全計画に基づいて 1986 年にオーストラリアで始まった自治的な地域環境・資源の管理システムとしてのランドケアは、オーストラリア国内のみならず多くの国でランドケアの実践が進んでいる。

(2) 地域の環境問題を個別の事象としてではなく、様々な環境的要素やアクターの相互作用が引き起こすシステムの問題として捉え、塩害や土壌劣化、外来種移入といった地域環境問題の総合的な解決を志向する点にランドケアの特徴があるが、それがどのような制度的特質を持つものであるか、とりわけ、持続可能な発展論の中でどのように原理的に位置づけられうるかが分析されてこなかった点に課題がある。

2. 研究の目的

(1) オーストラリアのランドケアの制度的特質を明らかにし、現地調査と理論研究を通じて、地域発展の持続可能性との関連性を原理的に解明する。

(2) 日本においてランドケアを導入する際の意義と課題を検討する。

3. 研究の方法

(1) オーストラリアのニューサウスウェールズ州とヴィクトリア州でランドケア活動を行っているグループや、ランドケア・グループを統括しているネットワーク、行政組織などを対象に聞き取り調査を行う。

(2) ランドケア活動に携わる様々な主体（市民、農家、コーディネーター、行政担当者等）に聞き取り調査を実施することで、ランドケアの制度的特質を多面的に把握する。

(3) パーサ・ダスグプタの持続可能な経済発展論の理論枠組みに依拠し、ランドケアを生産的基盤（productive base）との関係において原理的に分析する。

4. 研究成果

(1) オーストラリアのランドケアは、ローカルレベル、リージョナルレベル、州レベルという 3 つの階層に分かれて取り組みが展開されてきた。ローカルレベルでは環境改善の担い手として農家や市民が自律的に活動を展開しているのに対し、リージョナルレベルでは個々のランドケア・グループの間の連携を促進するためのランドケア・ネットワークが形成され、資金獲得や組織運営上のサポートを行っている。州レベルでは、各流域ご

とに環境管理計画を策定し、流域管理委員会（Catchment Management Authority; CMA）や州政府、連邦政府が協働し、ランドケア・グループやランドケア・ネットワークの活動に必要な資源を提供している。

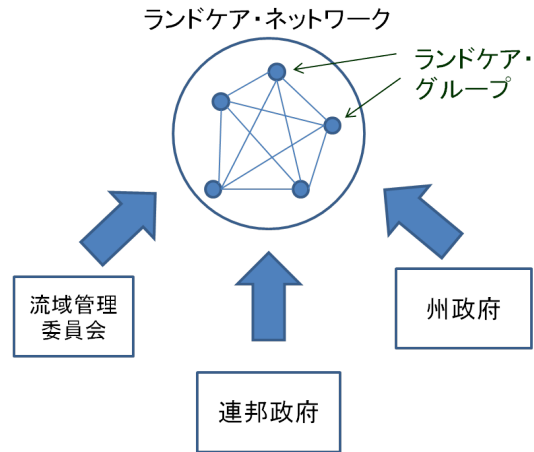


図1 ランドケアの特徴

(2) ランドケア活動の自律性を高めている要因として、ランドケア・ファシリテーター/コーディネーターの役割が挙げられる。ランドケア・ファシリテーター/コーディネーターはローカルのランドケア・グループの活動を促進するための助言や資源の提供を行うとともに、グループ間の横のつながりをつくり出し、ネットワークの形成を促進する役割を果たしている。

(3) 地域やコミュニティの人々の自律性と主体性を尊重しつつ、彼らの力だけでは問題を解決できないときに、ネットワークや行政が資源を提供するシステムとなっている。オーストラリアにおけるランドケアの思想の根幹には、補完性の原理がある。

(4) 成功したランドケア・グループの活動の過程をみると、自然資本をクリティカルなものとして共通に認識できる問題に限定して活動を始めている。また、ランドケア・グループがローカルレベルで形成されたプロセスを見ると、必ずコアとなる中心人物が存在し、メンバー間で保全対象や方法に関する問題意識が明確に共有されている。ランドケア・ネットワークの形成の動機は、資金の獲得や管理を効率的に行うということにあることが分かった。

(5) 活動が活発で成功を収めているランドケア・グループやネットワークに共通す

る要素として、活動資金源の多様性が挙げられる。単一の資金源に依存するのではなく、政府や自治体の提供する補助金、企業からの寄付金、その他の競争的資金を獲得することによって、活動の自律性が担保されている。

- (6) オーストラリアのランドケアを持続可能な発展論との関連において考えると、自然資本をクリティカルなものとして共通に認識する人々をベースとしながら、植林等の形で種々の自然資本への投資を促すと同時に、環境管理に取り組む人材の育成や、外部資金・技術の活用を図る制度システムとして、ランドケアを原理的に捉えることができる。ランドケアは、地域コミュニティが存立するための基盤であるクリティカル自然資本（本質的自然資本）の維持を所与の条件としつつ、地域の生産的基盤（productive base）を豊かなものにする働きを持っていると言える。この点で、ランドケアは持続可能な地域発展を実現するための制度として、重要な役割を果たしうる。

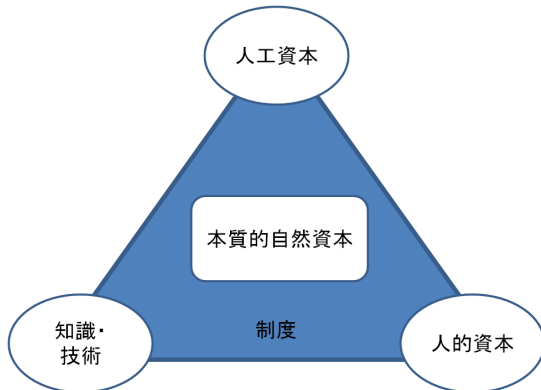


図2 ランドケアと生産的基盤の関係

- (7) ランドケアは、農山村地域の持続可能な発展をサポートするための一つのツールとなりうるが、その導入にはオーストラリアと日本の農村の文化や規範の違いを踏まえた慎重な導入が必要である。とりわけ、土地へのアタッチメントに対する認識はオーストラリアと日本では大きく異なる可能性がある。この点は、今後の研究を通じて、さらに詳細に分析・検討していく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

籠橋一輝、本質的自然資本の判定基準の再検討、社会と倫理、査読無、29巻、2014、51

[学会発表](計4件)

Tomomi Maekawa, Michael T. Seigel and Toshio Kuwako, Building a sense of caring for the natural environment through promoting multi-party collaboration: A study of the educational interaction design of the Australian Landcare movement、International Symposium on Affective Science and Engineering 2015、2015年3月22日~23日、Kogakuin University, Tokyo, Japan

籠橋一輝、経済と環境の両立に向けたランドケア・アプローチの有効性、南山大学社会倫理研究所「ガバナンスと環境問題」研究プロジェクト成果報告シンポジウム、2014年11月22日、南山大学(愛知県・名古屋市)

Michael T. Seigel、The interaction of Local and external influences in a case of deforestation、14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons、2013年6月3日~7日、ふじさんホール・富士吉田市民会館(山梨県・富士吉田市)

籠橋一輝、An inquiry into institutional drought adaptation and sustainability: Some implications from the case of the Sanuki Plain、14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons、2013年6月3日~7日、ふじさんホール・富士吉田市民会館(山梨県富士吉田市)

[図書](計0件)

[産業財産権] 出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

シーゲル マイケル (SEIGEL, Michael T.)
南山大学・総合政策学部・教授
研究者番号：4 0 3 8 7 7 3 3

(2)研究分担者

籠橋 一輝 (KAGOHASHI, Kazuki)
南山大学・社会倫理研究所・研究員
研究者番号：6 0 6 4 5 9 2 7

(3)連携研究者

鈴木 真 (SUZUKI, Makoto)
南山大学・人文学部・講師
研究者番号：3 0 5 3 6 4 8 8

桑子 敏雄 (KUWAKO, Toshio)
東京工業大学・社会理工学研究科・教授
研究者番号：3 0 1 3 4 4 2 2